

経済・金融 フラッシュ

家計調査 15年8月～実質消費支出 は市場予想を上回る高い伸び

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

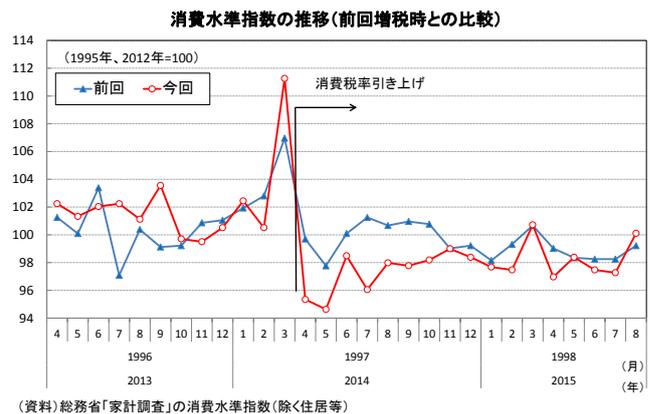
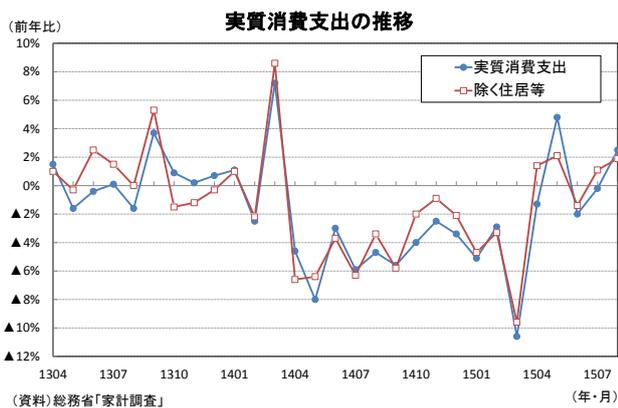
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 実質消費支出は市場予想を上回る高い伸び

総務省が10月2日に公表した家計調査によると、15年8月の実質消費支出は前年比2.9%（7月：同▲0.2%）と2ヵ月ぶりの増加となり、事前の市場予想（QUICK集計：前年比0.2%、当社予想は同0.8%）を大きく上回る結果となった。前月比では2.5%（7月：同0.6%）と2ヵ月連続の増加となった。月々の振れが大きい住居、自動車などを除いた実質消費支出（除く住居等）は前年比1.9%（7月：同1.1%）、前月比1.5%（7月：同1.1%）といずれも2ヵ月連続の増加となった。

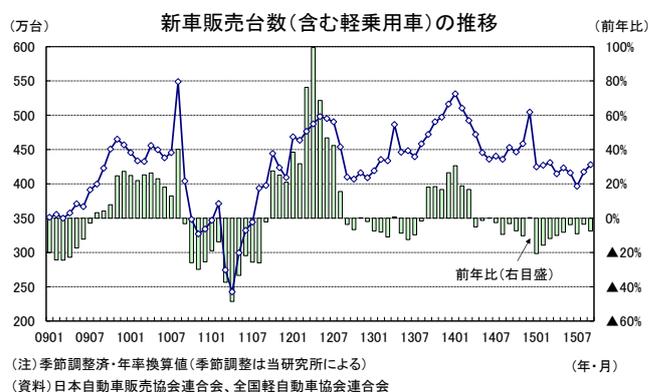
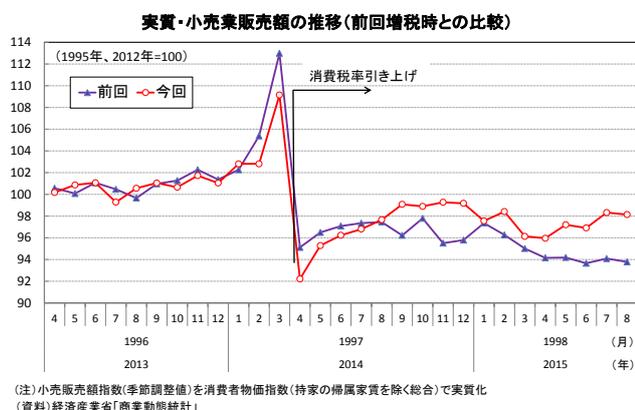
実質消費支出の動きを項目別に見ると、被服及び履物（前年比▲4.9%）、保健医療（前年比▲4.2%）は減少したが、設備修繕・維持などの住居（前年比15.2%）、授業料などの教育（前年比13.3%）が二桁の高い伸びとなるなど、10項目中7項目が前年比で増加した。

実質消費水準指数（除く住居等、季節調整値）は前月比2.9%と3ヵ月ぶりに上昇し、7、8月の指数平均は4-6月期よりも1.1%高くなった。実質消費水準指数は4-6月期には前期比▲1.0%と落ち込んだが、7-9月期は2四半期ぶりの上昇となる可能性が高い。



9月30日に経済産業省から公表された商業動態統計によると、15年8月の小売業販売額は前年比0.8%と5ヵ月連続で増加したが、7月の同1.6%から伸びが鈍化した。季節調整値では前月比0.0%（7月：同1.4%）の横ばいだった。物価上昇分を考慮した実質ベースの季節調整済・販売額指数（当研究所による試算値）は前月比▲0.2%の小幅な低下となり、14年末頃の水準を依然として下回っている。一方、軽自動車の増税の影響もあって前年比では減少が続いている自動車販売台

数だが、季節調整値（当研究所による試算値）では8月が前月比5.3%、9月が同2.5%とここにきて持ち直しの動きが見られる。



2. 実質所得の改善が個人消費を下支え

個人消費は15年度に入ってから低調な動きが続いていたが、8月の消費関連指標は家計調査を中心に強めのものが多かった。ただし、家計調査は月々の振れが大きい統計であるため、今月の結果だけで消費が回復軌道に戻ったと判断するのは早計だ。実際、消費水準指数（除く住居等、季節調整値）は15年3月に前月比3.3%の高い伸びとなったが、4月に同▲3.7%と急速に落ち込んだ後、7月まで底這い圏の動きが続いた。消費の基調を判断するには9月以降の結果を見る必要がある。

現時点では15年4-6月期に前期比▲0.7%と4四半期ぶりの減少となったGDP統計の民間消費は7-9月期には増加に転じると予想している。ただし、所得の伸び悩みが続いていることから持ち直しのペースは緩やかにとどまり、4-6月期の落ち込みを取り戻すまでには至らないだろう。

先行きの個人消費は緩やかな持ち直しが続くことが予想される。毎月勤労統計の特別給与が6、7月の合計で前年比▲3.5%の減少となるなど、名目賃金は伸び悩んでいるが、15年8月の消費者物価（生鮮食品を除く）が前年比▲0.1%と2年4ヵ月ぶりにマイナス（ただし、総合は前年比0.2%）となるなど、物価高による実質所得の押し下げ圧力は緩和されている。株価下落などが消費者心理の悪化につながるリスクはあるものの、当面は物価下落に伴う実質所得の改善が個人消費を下支えすることが見込まれる。